

真冬でも暖房のいらぬ A.C.Regalie の家

普通に考えて

「真冬に暖房がいらぬ？って嘘でしょ！」
って思いますよね？

アメリカであるテレビ伝道師が驚くような事を
言ったらしいです。

ちょっと面白いので紹介してみましよう。

「人に見られても恥ぢかしくない家、そう、あなたの家族ですら写真を撮らずにはいらぬほど素晴らしい家をあなたが持てるように願っています」

そしてその伝道師は

「家族が一日一回以上、あなたのことを考えてないとしたら、あなたはたいしたことを成し遂げておらず、貧しい生活を送っている可能性が高い」とも言ったらしいです。

聖職者の口からこんな言葉が出るとは思いもしませんよね。もっとも、キリスト教がたどってきた歴史をよく考えてみると、イエス・キリストも仲間(信者)がいなければ注目されずに消えていったかもしれません。

私は思います。

ここで言う「貧しい生活」とは、毎日フランス料理のフルコースを食べていることや、毎日きらびやかに着飾っていたり、好きなものを好きなだけ買い物が出来たり、高級外車を所有していることであつたりということとはかけ離れていると理解しました。

真冬に暖房をつけなくても十分温かい家、それは「貧しい生活」というのでしょうか？

いったい、真冬に暖房がいらぬってどういうことでしょう？

きっと「貧しい生活」の本当の意味も「真冬に暖房がいらぬ」という事も、今からご紹介することを読んで頂くと、きっとあなたなら最後にはご理解頂けると思います。

あなたの人生が今よりもっと興味深いものになりますように…

—その家は省エネ基準をみたしていますか？—

「真冬に暖房がいらぬ家があつたらどんなにいいでしょう！」

今から 15 年位前の話ですが…

北海道へ出向いた際に、とても断熱の分厚い家と出会いました。

その頃、私たちは、ウレタン発泡断熱の家をつくっていました。

私にとって、

その分厚い断熱の家はとても衝撃的でした。

なんと住宅で 400mm も断熱した壁を使っていたんです。

「あ～福島ではいらぬな！」

当時、まだまだ断熱に興味を持つ人はほとんどいないと判断した私はその様に思っていました。

—ここでは私が最も感謝している経験について記録したいと思います。—

東北大震災を境に私は、「今よりもっと断熱の重要性」を知る機会が増えました。

それは、震災直後の話です。「不安な日々が続いたが多くの人が集まり快適に過ごすことが出来た。」と、私たちのもとで家づくりをした皆さんが、私に話してくれたのです。

今ほどではありませんが、震災以前から私たちのつくる家の断熱性能は、他には真似出来ない断熱性能のいい家でした。それにより、「断熱のいい家がいかに心の支えになる」と言う事を知った私は、15 年前の事をふと思い出しました。

—震災のあつた年の夏—

そうはいっても、北海道の家がそのまま、みなみ東北でつくれる訳がありません。

それは、とある HM(ハウスメーカー)が福島で北海道仕様の家を建て、いくつもの問題を抱えたことを… その問題の解決に頭を悩ませていました。

出会いとは不思議なものです。縁とは必然なのかもしれません。

そんな時、とある所から電話がありました…

「秋田で、ちょっと変わった断熱の家をつくっている工務店がありますから是非一緒に見に行きませんか？」

と誘われた私は、即座に

「OK！しかしなぜ私の悩みがわかったの？」
と言う会話の中で、秋田での家の見学を決めました。

—DOT.プロジェクトとの出会い・・・そして—

その時、秋田で見学したのは 15 年前に北海道で見た Q1 住宅でした。

Q1 断熱の家づくりには、東北に”DOT.プロジェクト”、全国展開している”新住協”と 2 つの団体が深く関与しています。

北海道の衝撃の家を見てから 15 年の時が経ち、北海道でみた Q1 住宅が、北海道から南下していたことを秋田の研修で知った私は、即座にこの 2 つの団体に所属することを決めました。

—団体に所属する^{わけ}理由？—

やはり、新しい家づくりを単独で行うことは難しいです。

難しいとは？

失敗をする恐れがあるという事です。

そうは言っても失敗を恐れているは、よい家をつくることなど出来ません。

しかし、失敗作といわれる家を誰が好んで手に入れたと思うでしょう。

私も失敗作の家は要りません。

ですから、既に研究を重ねた多くの諸先輩方から教えを頂く為、まあ～言うなれば弟子入りする為に団体への所属を決めました。

—団体メンバーのメリットとは？—

団体に所属していると言うだけで、沢山の家の見学をすることが出来ます。

1. 何に失敗したのか？
2. どんな改善をしたのか？
3. 今後どのように家づくりを進めるか？

そういった事を教授頂けます。

心置きなく語り合える方々ばかりです。

—ここで私が感謝している二つ目の経験について記録します—

ある日、私があまりにも楽しそうに、当時家づくりを計画されていた方にこの Q1 住宅の話をしたそうです。

そして、失敗のリスクももちろん話した上で、「心置きなく大いにやってみて下さい！中澤さんなら大丈夫」

と言って Q1 住宅のテストをさせていただいたのは飯坂の K 様です。

本当に感謝しています。

まずは、2 面(北・南)の Q1 テスト住宅をモデルとして、施工させていただきました。

その後の経過も含め、「とても住み心地が良い」とお話を頂いております。Q1 住宅は成功です。

それでもなお、慎重な私は、次に私の自宅を Q1 住宅のテストとしました。

自宅は、思う存分好き勝手にやりました。

新しい気密シートも試しました。種類の違うグラスウールも使用しました。施工不良の出やすい場所にあえて挑戦もしました。今も尚、良好に家は断熱されています。

—真冬に暖房のいらぬ家との出会い—

私たちのホームページを見た方ならば既にご承知かと思えます。

私たちと家づくりをしてくれたお施主様は本当に様々な感想を話してくれます。

いいことばかり？

お客様の声を見て私たちの所に来る方のほとんどは

「あれ、本当なんですか？」

と疑いたくなるほど、私たちの家づくりを絶賛し A.C.Regalie を勧めています。

よく見て下さい、全て自筆です。

—お客様の感想は正直です—

お客様から頂いている感想を HP に載せています。普段のお客様との会話も私は覚えてメモにしています。

2018年に飯野で家づくりをしてくれたA様に、
いろいろな事を教えて頂きました。

A様はご実家の隣に、新居を建てたのです。
ご入居なさった後も、外構(実家まで)やカーポートまで、私たちを信頼し、依頼してくれました。
私たちは、いつも家づくりをする方に最良の方法を提示しています。

時には、断念する事も促します。

もちろんプロとして断念するだけの理由を話します。

それには、費用対効果の話もしますし、自然災害のリスクも話しします。

ですから、私たちに家づくりを依頼する方のほとんどは、土地探しをしている最中から私たちとの家づくりを決めます。

土地購入はとても大切です。自然災害についての相談も増えています。

飯野のA様も土地を探している時からのご相談でした。

一緒に多くの土地を見て、最終的に実家の隣に建てる事を決めたのです。

そんなA様から新居にご入居後、外構工事を依頼され、打ち合わせをした時の話です。

－暑い家－

それは年が明けた、1月頃の話です。

外構工事の打ち合わせは、お父さんも含めた話でしたので、新居では無く、
実家のリビングで話をする事になりました。

お茶を頂きながら、打ち合わせをしていた時、
お父さんが言うのです。

お父さん「家(実家)は寒くないかい？大丈夫かい？」

お嫁さん「あっ！大丈夫です」

お父さん「そうなんだよね！中澤さん！あっちの家(新居)は、暖房たかなくても、暑いんだよね！」

中澤「あ～なるほど！」

1月の中旬、10時頃の話です…。

－無暖房住宅－

全国的に“無暖房住宅”という家をつくれる会社が増えつつあります。

しかし、私がいつも疑問に思うのは
無暖房住宅とかパッシブハウスとかソーラーハウスとか、
なんとも理解しがたい表現をどうしてするのでしょう？

住宅業界の七不思議があります。

－業界の七不思議－

どの業界にも七不思議というのはあると思います。

住宅業界にもそれは存在しています。

その一つが、“いい家ほど伝わりにくい”と言う事。
無暖房住宅とかパッシブハウスとかソーラーハウスがそれに当たります。

いちいち調べないと、住宅業界、建築業界の方以外にはわかりにくい！

車でドライブしている時、小学生の子供に

「ね～パパ、無暖房住宅って何？」

って聞かれて、即座に子供にもわかる説明を出来る方がどれほどいるでしょう？

－思い出して欲しいのです－

飯野のA様のお父さんの言葉はとてもわかりやすかった！

私は心を奪われました。

お父さん「そうなんだよね！中澤さん！あっちの家(新居)は、暖房つけなくても、暑いんだよね！」

－牛一頭いれば暖かい家－

私が教授をうけた工務店さんに、“牛一頭いれば家一軒が暖かくなります”と

お話し頂いた方がいました。

あえてお名前を出す事を控えさせていただきますが、とても感謝しています。

そういった数々の工務店の皆さんに教えを頂けたことで私たちは、真冬でも暖房無しで暖かい家を実現できています。この場をお借りして御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

地域にもよりますが、福島では、牛が身近とは感じられなかった私は

飯野のお父さんの事を思い出しました。

－耐震・防火につぐ基本性能－

耐震等級や防火性能、シックハウス・・・など

家の安全性は以前より増して、よくなりつつあります。

それでも、残念な事に耐震性は未だに、等級を意識していない工務店がまだまだ多いのも現実です。

この冊子を見ている、あなたも含め皆さんは「建物の価格が上がるから」と自分勝手な理由で、周りを見ながら、家の断熱を後回しにするという工務店には興味は無いと思います。

仮にデザインがよかったり、営業マンが優しくったり・・・

展示物ならばそれでもいいですが、

「一生その家に住んでいくと考えるとそれだけでは・・・」

と思っているに違いないと感じています。

－断熱という基本性能－

家の断熱は、生活を一変させます。

まず、24時間換気をほぼしなくなります。

24時間換気は、そもそもシックハウス対策で法的に設置する義務があります。

「本当に24時間回さなければいけないのでしょうか？」

と疑問を持つ方が、A.C.Regalieで家を建てた方にはとても多いです。

皆さん知っているのです。

「24時間換気を回し、家の中が常に乾燥します。その為、あちらこちらで何台も加湿をする。換気扇も加湿器も電気代は必要だし、何より加湿器へ水を入れるのは面倒ですと新築した知り合いが話す」と私に告白し問題解決をお求める皆さんがとても多いです。

確かにその通り、24時間換気を冬場におこなうのは、家の基本性能が低く、壁などに結露を起こさせない為に使用されているケースが多いのが現状です。

ですから、沢山の加湿器を置き、加湿することで本来不要な電気代も掛かれば、水を入れる手間も

出ます。

－インフルエンザ対策なの？－

床、壁、天井の断熱がよく、しかも接着剤を使用しない断熱材を使った A.C.Regalie のキューワン断熱の家は、子供が風邪をひきにくいそうです。キューワン断熱の家に4年住んでいる福島市のS様から

「私の子供の学校で、インフルエンザで学級閉鎖になって、うちの子は家にいるんだけど、うちの子供はいたって元気で家でうるさくて・・・

そういえば、家をつくった後、家族が風邪をひかなくなったかな～」

と嬉しいお便りを頂きました。

断熱が良いので、24時間換気を回して湿気を抜く必要がありません。

断熱が悪いと、結露を防ぐ為に24時間換気を回すことを義務かの様に言われます。

24時間換気はそもそも、シックハウスの揮発性物質を外部に排出する為に、法律で設置を義務づけたのですが、建築材料が良くなったこともあり、以前ほどではないのですが、

そういった経緯や必要性を知らない所では、結露防止の為に24時間換気を回すことを法律の義務として話しています。大抵そういった会社の断熱・気密は良くないことが多いです。

－大切な！湿度50%前後で過ごすこと－

クーラー一台で過ごせる家は沢山ありますが、湿度について話をしている所は皆無です。

なぜ？でしょう。

家の快適性とは？「適度な“温度”と適度な“湿度”」が両立してはじめてです。

人間の80%が水分だと言われているのですから、いくら温かくても、乾燥するのでは不快と言えますし、肌の老化も早くなります。湿度は温度にとっても関係します。

冬の外の湿度はおおよそ50%位なのですがそれは、温度が低いからです。

24時間換気を回すと、室内の湿気は外に出ていきます。

そうすると、外の空気に含まれる水分が室内に入

りますが、室内が20度だった場合
外の空気を入れた時、室内の湿度はおおよそ15%
位になってしまいます。
外がいくら50%でも、温度が外よりも高い室内に
外の空気を入れた途端、湿度は下がります。
空気中の水分を補う為に室内では体から水分が
奪われます。
冬に外出する時、乾燥対策をしているはずですが。
乾燥している家では、それ以上の乾燥対策をする
事になります。
そこで！加湿器を必要とするのですが、24時間換
気を回しているのでは全く意味のない状況です。
まるで、お風呂の栓をしなくて、お湯を溜めよう
としているようなものです。
今度は24時間換気を止めると結露を起こす・・・
どうやっても悪循環な事になります。
断熱のよい家ですと、結露が起こるのが窓に限定
されます。
湿度50%～40%の間に落ち着きます。
ですから、乾燥しない暖かい家ができあがります。

－暖房のいらない家－

前置きがかなり長くなりましたが・・・
断熱をしっかりすることにより、暖房のいらない
程暖かい家になります。
飯野のお父さんの話を思い出して下さい。
住んでからの建て主さんの沢山の喜びの声をよ
りわかりやすく
私たちは、伝えるよう常に努力しております。

「真冬でも暖房のいらない A.C.Regalie の家」
とは？

そういった、住んでからの感想の中から生まれた
わかりやすい表現なのです。

それ以外にも、

「子供が風邪をひかなくなった A.C.Regalie の家」
でもいいですし

「アンチエイジングな A.C.Regalie の家」

でもいいと思いますし

「冬に半袖、半ズボンで過ごせる A.C.Regalie の
家」

と言うものもあります。

結局は、他よりも圧倒的に

「A.C.Regalie の家でよかった～」

と言うご意見が沢山ある、

”A.C.Regalie の家”と言う事です。

適切な湿度を保ちながら、暖房をしなくても十分
に暖かいことを実感して頂いている方が、すでに
沢山います。

そんな皆様のご要望やご意見を頂きながら、
A.C.Regalie は存在している意義を持っています。
そして決して「貧乏な生活」とはほど遠い笑顔と
支援をいつも私たちは頂いています。